



海外生活
だより

ニューヨーク事務所

自転車から眺める マンハッタン

(財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐
吉川 幸男(島根県松江市派遣)

はじめに

ニューヨークに赴任するまで、現地で役に立つ交通手段は、地下鉄とタクシー程度だろうと半ば思い込んでいました。

しかし、赴任後、多少は現地の生活に慣れ、周囲の景色が目に入るようになると、さまざまな交通手段が利用されている様子が目に留まるようになりました。各通りを市バスが縦横無尽に走行していますし、イースト川やハドソン川に囲まれるマンハッタンには、いろいろなフェリー路線があり、重要な交通手段の一つになっています。そのほか、郊外へ向かう鉄道やバス路線も充実しており、想像していた以上に便利な交通手段が整備されていることがわかりました。

そうした中、少し違和感を覚えたのは、町中で自転車をあまり見かけないことでした。ステレオタイプな発想かもしれませんが、“欧米は自転車利用の先進国”と思っていたので、ピザなどの宅配業者か、公園内のコースを走る自転車程度しか見かけないことを不思議に感じていました。

子どもの頃から自転車で散歩することが好きだった私は、実際に自転車を購入し、市内を走ることで、ニューヨークの自転車利用の実態に迫ってみることにしました。

ニューヨークでの 自転車利用の現状

ニューヨークであまり自転車を見かけないことについて、私なりに理由は思いつきます。

第一に、地下鉄やバスなどの公共交通機関がある程度整備されており、自転車で移動する必要が

ない。第二に、車道には自動車が多数走行し、運転も荒いため、自転車の車道走行は危険を伴う。歩道は歩行者が多く、また法令上も自転車は走行できない。第三に、盗難の危険性が高い。街中で駐輪されている自転車は、非常にしっかりした鍵で施錠されており、盗難の危険性が高いことがうかがえます。このような環境であれば、^{おの}自ずと自転車の利用も低迷するのだらうと想像しています。

私も実際にマンハッタンの中心部を走行してみました。恐怖心を克服するまでには、もうしばらく時間がかかりそうです。自転車レーンは一部しか整備されていませんし、自転車が走行する側道付近には、タクシーや一時駐車している車両も多く、スムーズに走行することはできません。横断歩道付近では、信号とは関係なく歩行者が飛び出してきます。

ここまで書くと、自転車に乗る楽しみなどないように聞こえるかもしれませんが、人と車が集中する中心部を避け、マンハッタン島を囲むように「Manhattan Waterfront Greenway」という歩行者・自転車専用道が川沿いに整備されていることを発見しました。これは自転車をはじめ、歩行者やランナー、インラインスケートなどのエンジンを持たない乗り物(Non-motorized Transportation)を対象とした専用道で、約32マイル(約51km)がマンハッタン島内に整備されています。設置が困難な箇所や整備中の計画区間もあり、完全に島を周回できるわけではありませんが、公園などとも組み合わせながら、ハドソン川、イースト川の両岸を中心に整備されたGreenwayでは、サイクリングを満喫できます。

Greenwayの多くの区間では、進行方向別に走

行車線が区分されていたり、自転車用の信号機が設置された区間などもあり、安心して走行できます。晴れた日にGreenwayを走行すると、中心部では見かけることの少なかった自転車やインラインスケートなどの利用者を多数見かけます。



道路の高架下を利用したイースト川沿いのGreenwayの様子。進行方向別に路線が区別され、安全に配慮されている

水に囲まれるマンハッタンの歴史と魅力を実感

“Waterfront Greenway”と命名されているだけあり、ルート的大部分はマンハッタン島を取り囲む川沿いに整備されており、多くの区間で水辺の景色を眺めながらサイクリングを楽しむことができます。Greenwayの整備には、にぎやかなマンハッタン中心部に比べ、概して開発の遅れた河岸地域の活性化策としての意義も含まれているようです。



ハドソン川沿いのGreenwayの様子。写真中央のジョージ・ワシントン橋を渡れば、対岸のニュージャージー州へ行くこともできる

地図を広げるとわかりますが、マンハッタンは東西南北を川や湾に囲まれた島になっています。時間はかかりますが、水辺沿いにGreenwayを走りマンハッタンを一周すると、マンハッタンが“島”であることが実感できます。現在、マンハッタン

島に架かる橋で自転車が通行できるものは16基あり、それぞれに個性があります。大きな鉄びょうが打ち込まれた橋の上から、いつもと違う視点で眺める川辺や街の景色は格別です。

19世紀前半、蒸気船の発明やエリー運河の開通などを背景に、水運に恵まれたマンハッタンを中心とする当時のニューヨークは、アメリカ最大の商業港湾都市として著しい発展を遂げます。観光地としても有名なブルックリン橋が完成したのもこの頃です。

ニューヨークの発展を支えてきたハドソン川やイースト川、19世紀後半から20世紀中頃にかけて建設され、当時の雰囲気を現代に伝える橋などを眺めながら自転車を走らせると、水運の全盛期であった当時の様子が思い浮かびます。

おわりに

Greenway自体はガイドブックに掲載されてはいませんが、Greenwayはバッテリーパークやブルックリン橋のような観光地にもつながっており、さまざまな魅力を兼ね備えています。また、マンハッタンに限らず、ブルックリンやブロンクス、ニュージャージー側にも同様のルートが整備されつつあり、幾らでも時間を費やすことができそうです。

本年5月、ニューヨーク市は同市に本社を置く大手金融機関であるシティバンクと連携し、マンハッタンとブルックリンの一部区域を対象とした自転車共有（レンタル）プログラム「シティバイク」の取り組みを開始しました。約6,000台の自転車が通りに設置され、青色の“シティバイク”に乗る人の姿を見かけることも多くなりました。この取り組みが定着し、街中での自転車利用が普及すると、ニューヨークの自転車利用の環境も大きく変わるかもしれません。

ニューヨークには無数の楽しみがありますが、時に街の喧騒から離れ、地域で生活する人々の視線も味わえるサイクリングは、健康管理も兼ねた、私の一番の楽しみになりました。安全運転に気を配りながら、引き続き、ニューヨークの自転車事情を見守っていきたいと思います。